



人権だより(3月)

人権委員会 令和2年3月11日

- ① 倉橋真生・鮫島優良・畑田舞衣
 苫米地涼太・船田鉄心・吉兼光希
- ② 伊藤奏良・丹生谷健斗・宮本優奈
- ③ 亀島桜・松田歩・矢野愛花

月間目標「臨時休校中でもおもいやり!

こんなときこそたすけあい!

【テーマ】「被災者差別について」

【1】人権委員による調べ学習(担当1年生)

被災の現実をどれくらい真剣に考えていますか?

災害に対してどれくらい本気で備えていますか?

●東日本大震災の被災者の現状(復興庁のまとめ2017→19年12月現在)

仮設住宅やみなし仮設、親戚宅等に身を寄せる被災者も多数おり、福島県の避難者が半数以上の人数を占める。震災後の避難生活による体調悪化、自殺等による「震災関連死」も明らかにしている。

〔被害状況〕 震災死者：15,894 → 15,899 人	行方不明者 2,562 → 2,529 人
震災関連死：3,647 → 3,739 人	避難生活者数：71,113 → 47,737 人
仮設住宅入居戸数：33,748 → 33,525 戸	(愛媛県 123 → 105 人)

東日本大震災が起こってから9年経った今でも5万人弱の人が避難生活をしている。この2年で2万人以上減ったが、仮設住宅での生活を余儀なくされている被災者が約2万3千人いる。親戚、知人宅に身を寄せている避難者も約2万4千人に上る。震災後の避難生活による体調悪化、自殺などによる「震災関連死」は、この2年で100人余り増えた。東日本大震災という戦後最大の自然災害は人々の暮らしを一変させただけでなく、子どもたちの心にも大きな傷を残しました。9年経った今でも、家や大切な場所を失ったその傷は癒えぬまま、街の復興が進んでいます。教育現場では今もなお、震災の影響で精神的に不安定になり、集団生活が困難な子どももいます。貧困により進学を諦めたり、地域のコミュニティ破壊により「居場所」がない子どもなど様々です。今後は取り残された心の傷に寄り添い、子どもたちとその家族への継続した支援が必要な状況です。

【感想】 東日本大震災から9年経った今でも まだ多くの方が様々な環境で苦しんでいることが分かりました。当たり前前の生活が困難であるなど、これからも課題がまだまだ多く残っていると思います。私たちもその被災者の人たちの心を思い、当たり前前の生活に感謝で日々を過ごしていくことが大切だと思いました。

福島第一原発
3号機の爆発 →



●被災者に対する偏見や差別の実態

非常に残念な事ですが、被災者が受けた心の傷は、家や大切な人を失ったというだけではありません。原発や津波等で、その場所に住めなくなった被災者への移住先でのいじめが起こっているのです。実際に、移住者の6割以上が被災者というだけで偏見をもたれ、不快な思いをしたというアンケート結果があります。放射線の影響があるのではないかと偏見をもたれたり、仲間外れにされたりされるだけでなく、「なぜお前だけ生きているのか」と人道に反したひどい誹謗中傷を受けたり、「賠償金を貰っているだろ」と金銭を要求されたりした人もいます。震災から9年経った今もそうしたいじめのトラウマ等で、心に大きな傷を負った人が多くいます。

【感想】 このような被災者に対するいじめ問題をニュースで聞いた時、なぜ大切な人を亡くしたり、住む場所を無くしたりして、心に大きな傷を負っている人たちが、やっとの思いで安心できる場所を求めて移住してきた先で、更に傷つけられなければならないのか、僕は悲しく思いました。こんな事が起こる背景には、震災を他人事として捉える無関心さや、想像力の低さがあると思います。被災した人は様々な苦しみを乗り越えてきたはずで、また、次に自分が被災し、助け合うべき時にされたら苦しい事は絶対にしてはいけないし、むしろ心の回復こそが最優先されるべき時だと、ごく普通に考えられる人達が周りにいればこんな事は起きないはずで、年月が経った今だからこそ私たちができること、しなければならぬことをもう一度考えなければならぬと思います。

●被災者差別・いじめの実態（福島からの避難生徒の話）

- ・「加害児童生徒から人目が気にならない所でお金をもってこい」と言われた。メールでも言われた。
- ・「国からの賠償金があるだろ?」と言われ、むかつくけど抵抗できなかった。
- ・「お金をもってこい」と言われたとき、すごく悔しかったけど、抵抗するとまたいじめが始まると思って、何もできずに、ただ怖くてしょうがなかった。
- ・加害児童生徒にはいつも蹴られたり、殴られたりランドセルを振り回される、いじめがいつ終わるかわからなかったので、辛かった。
- ・ばい菌扱いされて、自分は放射能だと思っていつも辛かった。福島の人はいじめられると思った。何も抵抗できなかった。
- ・今まで色々話をしてきたけど、学校は信用してくれなかった。



【感想】調べていると他にも、原発事故のあった福島県からの避難者がホテルで宿泊を拒否されたり、ガソリンの給油を拒否されるといった事例のほか、福島産の農作物を買うのを拒否したりと、たくさんの事案がありました。放射能の影響を心配するからなのかもしれませんが、根拠のない思い込みや偏見で差別することは絶対に人権侵害です。震災に遭った人が、避難先で差別を受けたら、どんな気持ちになるだろうか。人の気持ちを考え、客観的に見て行動し、助け合う事が大切だと思います。

【2】3月11日：東日本大震災の日（平成23年3月11日 午後2:46）

私たち愛媛県民も福島県民への差別は他人事ではありません。もしも南海トラフ大震災による津波や熊本大地震のような断層地震が伊方原子力発電所を襲い、放射性物質が漏れ出すような事態になれば、愛媛の物産の信用は壊滅し、愛媛県民は被爆者として差別されるかもしれません。被災者の方々の現状を私たち愛媛県民も自分の事のように捉え、同じ日本人として支援できることはしていきたいとは思いませんか。今私たちにできることは、募金などの金銭的な支援や被災者の受け入れ、そしてなにより正しい理解が必要なのではないでしょうか。私たちはこれまでに、東北のお米や魚介類、お肉などのおいしい食材の恩恵を受けながら生活してきました。また、電力供給の点でも原発に頼っており、事故時の健康リスクは近隣住民に追わせているのが現状です。しかし、事故が起こるとたちまち物産に対する不信感を抱き、被爆者扱いをする。そんな恩を仇で返すような、冷たい人間にはなりたくないとは思いませんか！



【3】三年生から贈る言葉（第3弾）

- ・面倒くさくても、ボランティアには参加しておく方がよいです。大学入試において、推薦入試などでアドバンテージになります。
- ・なにか伝えるときは「思う」ではなく、「感じる」や「考える」など自分の意思を強くもつこと。信念をもって面接などの勝負の場では話すこと。感想文などで習慣づけておくことも大切です。
- ・嘘や噂に流されない、自分の意志を持った強い人間になってほしい。でも、行事などでなかなかみんなの意見がまとまらない時には、自分が折れるということも大切です。そして、ずっと友達と一緒にいるのも楽しいですが、もうすぐ社会人になるという自覚をもって、一人で行動できる自立した力を身に付けておくとういと思えます。高校生活はあっという間でした。振り返ると、あの時ああしておけばよかったと思うことが多々あります。1, 2年生のみんなには同じ思いをしてほしくありません。なので、これからの1つ1つの行事や授業を大切に、悔いの残らない高校生活をおくってほしいです。新学年も頑張ってください！



【4】人権委員会より

昨年度は乗り越える年、これからは継続の年です。新入生は現役分校生の在り方を見て、聴いた情報を基に中島分校を希望します。自分たちが誇りをもって通える学校。卒業後も自慢できる学校。新1年生が中島分校を選んでよかったと思えるような安心できる学校。このような学校であり続けるために、中島分校を生徒、保護者、教職員、地域、みんなで一致団結していきましょう。